

黎明「地域社会との共創」～「体験！一日大学生」創案の経緯

花園誠(教育人間科学部 こども学科)

キーワード：地域社会、共創、体験学習、一日大学生、中学生

1. はじめに

2010年4月足立区に本学のキャンパスが開設された。そして、足立区教育委員会との連携事業が始まる。そのもとは、2008年12月に本学が足立区にキャンパスを開設するニュースを手に入れた足立区教育委員会からの本学へのアプローチから始まった。そして、今日にいたるまで足立区教育委員会との連携事業は連綿と継続してきた。振り返ると一連の連携事業は「地域社会との共創」そのものと評価できる。以下はその出だしの受信記録である。

送信日：2008年12月18日（木）

送信者：足立区教育委員会

勝手な申し入れにもかかわらず、ご配慮いただきありがとうございます。当日は、教育長、学校教育部長外4名で訪問させていただきます。ただし、午後2時までに庁舎に戻らなければいけないので、ちょっと強引なスケジュールとなります。現在、滞在時間を長く確保すべく時刻表と格闘中です。お話を伺いたい点ですが、3点あります。

- 1.子ども達が利用できる施設を見学させていただきたい。
- 2.その上で、どのような体験学習が可能か、お話をいただければと思います。
- 3.当方としては、帝京科学大学の支援を前提に、体験学習プログラムの構築、学生さんとの交流（サポート）ができないものかご相談したいと考えています。この話は、今後も継続を前提に考えています。足立にお越しになれば、より密度の濃い協力体制が築けるものという気持ちを教育委員会として持っています。経費が発生する場合はきちんと整理していくつもりですので、是非ともご支援をよろしくお願いします。

そして同年12月28日の官庁御用納めの日、教育長以下、教育委員会の部長・課長の面々が連れ立って上野原キャンパス（現東京西キャンパス）に来訪。聴くと、全員の都合が合う日がこの日よりなかったそうである。筆者は、地元の子供たちに対する様々な体験学習を考案・実践してきた実績を買われて、教育委員会の面々の前で実践してきた体験活動についてプレゼンテーションした。その場で、「その活動を足立区のこどもたちにも是非とも願いたい」との反応であった。翌年春、以下のメールをいただいた。

送信日：2009年5月15日

送信者：足立区教育委員会

遅くなってすいません。貴校との連携事業に関する考え方についてまとめましたので、送付させていただきます。今後とも、実施に向け話し合いをさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。足立区が考える帝京科学大学と共催の体験教室

子ども達が季節の移り変わりを敏感に感じ取り、様々な事象に興味や関心を持ち、素直に感動できる機会を創出したい。一過性の体験ではなく、日々の生活の中で気付く「なぜ」という疑問を自分自身で探り、考えることができれば、子ども達にとってどれだけ大切な経験となるだろうかと、ずっと考えていました。

それが、帝京科学大学との出会いによって、実現性が高まったと感じています。

座学ではなく、体で覚えた体験は、子どもにとって忘れられない経験となるはず。子ども達に豊かな心を育むプログラム開発に是非ともご協力いただきたいと考え、昨年末に上野原までお願いに伺いました。

具体的な計画は、まだ出来上がっていません。しかし、イメージとしては、

テーマ1 動物とのふれあいを通して、「命のぬくもり」を感じ、「友達や大人とのコミュニケーション力」向上を図る。

テーマ2 自然をキャンパスに、色々な動植物や事象に注目させ、自然の不思議を体感することで勉強への興味や関心につなげる。草木や昆虫、小動物の観察。空を眺め、雲や風、星座の話聞く。

貴校の学生さんを主体に考えています。授業やボランティアの一環と位置付けた活動としていただければ、貴校との強固な協働体制が築けます。学校に色々な大人が出入りし、様々な知識を子どもたちに伝え、子ども達がわくわくする機会を与える。こうした触発が、子ども達の潜在的な能力を目覚めさせる契機に成り得ると信じています。

テーマ1は、学生が定期的に小学校を訪問し、動物を通じた子ども達とのコミュニケーション活動が基本です。お兄さんやお姉さん世代の学生の話は、子どもにとって良い刺激となります。しかも、大好きな動物を介して、新たな知識を吸収し、動物の温もりを通して生命の大切さが理解できれば最高です。

こうした、日頃の交流をベースとして、テーマ2に移行させたいと思います。身の回りから自然へと子ども達の興味・関心の視線を広げます。上野原市は距離的にも近く、自然にも恵まれています。こうした環境を生かして、教科書ではできない体験による学習を実践したいと考えます。この取り組みも、日々子ども達と交流している学生が参加してくれることで、子ども達だけでなく、教員や保護者も安心できる事業が実施できます。

子ども達に自らの体験で何かを学ばせたい。彼らが親になり、その体験したことを子どもに話ができる大人になって欲しいのです。

まだ夢の段階であり、どこまで実現できるか不確定ではありますが、子ども達のために頑張りたいと思います。

<整理すべき課題>

21年4月7日現在、小学校72校に32,300人、中学校37校に14,087人の子ども達がいます。

テーマ1では、

- ①定期的な取り組みが、どこまで可能か。
- ②動物以外に、実験や観察の体験メニューができるか。
- ③学校により子どもの人数に違いがあるが、対応可能なプログラムを作成できるか。

テーマ2では、

- ①子ども達や教員と面識のある学生が参加可能か。
- ②日帰りと宿泊での体験を考えているが、受入施設はどうか。
利用可能時期、施設規模、経費、
- ③日帰りと宿泊での体験プログラム内容、雨天時での対応メニュー

難題山積であった。とくに対象となる児童・生徒数がこれまで活動してきた上野原市とは文字通り桁違いに多いことが大問題であった。なにしろ上野原市の総人口数の1.5倍である。「量」をどうこなすか、は先送りとして、上野原市の児童に対して実施したことが、都会の足立区の子どもたちに通用的なのか、そこを起点にプログラムを考えた。

送信日：2009年6月10日

送信者：足立区教育委員会

先日は色々とお話を伺い参考になりました。区では、新たな子ども達の体験学習のあり方について模索中であり、花園さんの言葉は力強く感じ、感銘しました。核家族化が進展し、大人との関係が希薄な現在に、お兄さんやお姉さん世代の学生が交流を持ってくれる機会は、子ども達の成長において大きな影響を与える契機になると考えます。昨日、小学校の校長会で帝京科学大学との連携に向けた話し合いのスタートを足立区教職員課したところ、積極的に進めて欲しいとの意見がほとんどでした。こうした背景から、具体的にどのような事業が可能か情報の交換をさせていただきたく、メールを書いています。誠に勝手ですが、花園さんの経験からいくつかのプログラムをご提案いただけないでしょうか。よろしくお願いします。

「日帰りコース」と「1泊コース」での訪問を考えています。

- 1.時期もあるでしょうが、この2パターンでの体験プログラムをお示ください。
- 2.足立区において、学校を巡回する形式での動物との触れ合い体験は可能ですか。

以上、よろしくお願いします。

送信日：2009年6月19日

送信者：花園誠

お尋ねの件、返答が遅れて申し訳ありません。今までの地域連携活動は、教員個人の判断にまかされていたのですが、この度の足立区との地域連携については全学的対応の動きがあり、お尋ねの内容について返答を自重していました。ご理解ください。先日、学科会議の席上で当面の間（おそらく大学の体制が固まるまで）、これまでのような対応で構わない旨が申し合わされましたので、それを受けて返答いたします。

Q1.「日帰りコース」と「1泊コース」での訪問を考えています。

- 1 時期もあるでしょうが、この2パターンでの体験プログラムをお示ください。

A1. まず「日帰りコース」について、これまでの活動実績からお答えいたします。100人規模を想定しています。

(1)大学遠足

好天であることが前提です。受け入れ態勢として、大学内の「いいの広場」もしくは「ふれあい動物公園」にブースを設営いたします。ブース数は、100人規模であるならば10程度で、内容は「小動物（ハムスター・モルモット）とのふれあい」「両生類・爬虫類とのふれあい」「犬とのふれあい」「馬とのふれあい」「顕微鏡観察コーナー（虫などの観察）」「双眼鏡観察コーナー（野鳥などの観察）」「アイボ（動物ロボット）と遊ぶコーナー」「動物クイズコーナー」「ハムスターのお家づくり体験」「動物看護の体験コーナー」「発砲スチロールの工作コーナー」などのものを設営いたします。朝10時頃に到着していただき、進行の段取りは、「はじめの会／5分程度」「動物ふれあいのルール説明／5分程度」「メインの自由行動（こどもたちの自由にまかせてブースを巡ってもらいます。）／2時間程度」「昼食会（学生たちとお弁当をいただきます）／40分程度」「学生たちとの交流／30分程度」「終わりの会／10分程度」といったところでしょうか。お昼を食べて、午後1時半には帰路につけるとします。毎年市内の小学生100人に対して実践を繰り返しているプログラムで、子ども、学校の先生たちに大好評の実績のあるプログラムです。今年度も例年どおり、10月に実施が予定されています。オプションで、大学内の施設見学も盛り込むことが可能ですが、この時にはグループ行動が原則で、その分時間も延長いたします。

(2)上野原の自然散策

好天であることが前提です。市内の山、川を散策していただきます。朝10時頃に到着していただき、進行の段取りは、「はじめの会／5分程度」「散策のルール説明／5分程度」「メインの散策（山もしくは川）／2時間程度」「昼食会／40分程度」「学生たちとの交流」「終わりの会」といったところでしょうか。散策は、学生引率のもと、少人数のグループ行動が鉄則です。安全のためです。散策中のメニューとしては、季節によりですが、植物を観察したり、課題として指定された生き物を探したり、散策のエリアによっては（市内の八重山。遊歩道が整備されています。）地図を渡してオリエンテーリング的に探検するというのも考えられます。

A2. 次に1泊コースについてお答えします。日帰りコースのメニューをいくつか組み合わせることが考えられます。例えば、初日ははじめの会・上野原自然散策1（山）・昼食・学生との交流（休憩もかねて）・上野原自然散策2（川）・夕食・ふりかえり・就寝・大学遠足・昼食・学生との交流・ふりかえり・終わりの会 といったところでしょうか。子どもの学年によっては野外炊爨を入れてもよいかもしれません。

Q3. 足立区において、学校を巡回する形式での動物との触れ合い体験は可能ですか。

A3. 足立区に活動の拠点がないので、上野原から動物と学生が出向するのが現時点で可能な手段ですが、この場合、活動の回数が限られると思います。1日に1校1学年（がんばって100人程度）が限界です。学生と動物への負担を考えると、山梨の小学校対応に大半の時間を割かれる現状では、試行的に数回（今年度中に試みるとして）が限界かと思っています。足立に活動拠点（動物を一時飼育できる。学生が宿泊できる。）がある場合はもう少し無理が可能かもしれません。本学の足立

校舎と足立区の人員配置次第では、さらに融通がきく可能性がありますが、その点については現時点では明確に返答を差し上げられません。ご理解ください。以上でございます。乱筆、ご容赦ください。とりいそぎ。花園誠

地域社会との共創の始まりである。

2. 大学連携事業の試行

初年度は、筆者の担当では、(仮)事業名「ふれあい動物教室」を5回、(仮)事業名「大学遠足(足立区小学生を東京西キャンパスのある上野原市に招いての自然体験)」を3回試行した。「試行」ということで、経費は全て大学の負担で、この年より発足した「地域連携推進センター」の年間予算から支出、消耗品類の経費は個人研究費で、そして、卒業研究を兼ねられた活動については、その一部を卒研費で賄った。いずれも各回3クラス90名程度の子どもたち相手の体験活動で、「安全管理」、「教育効果」などを懸念する向きもあったが、いずれも大好評で、翌年より足立区教育委員会です算化、正式に事業化した。

3. 地域社会との共創の展開～「体験！一日大学生」の創案

足立区教育委員会の担当職員と、連携事業の展開について雑談めいた話をしていたときのことである。「先生、私には夢があつて。無理かもしれないけど。」「夢・・・。何ですか?」「足立区の中学生在に大学を見せたい。大学がどういうところで、どんな勉強しているのか体験させたい。」「なぜそのような?」「高校受験の時にはもう大学に行くかどうか決める生徒が過半で、中学生のときから将来の進路として大学を意識させたい。それには大学を見せないことには。」「なるほど。」この瞬間、「その夢はかなえられます。」との思いが脳裏にうかんだ。ただ、口にはしなかった。そもそもの専門分野ではないが、「不可能を可能に、夢を現実には」は科学者としての矜持である。

早速、構想を練り、1週間ほどで企画を完成した。そして学内の「根回し」に動いた。以下は、地域連携推進センターメンバーの教員に向けた第一報の送信メールである。

送信日：2010年4月18日

送信者：花園誠

〇〇先生、〇〇先生 花園です。地域連携センターの「旗揚げ興業案」についての私案です。地域の中学生在に千住キャンパスで「1日大学生」になってもらって大学の雰囲気を経験してもらおうイベントを考えました。実施日として、きたる6月29日(火)の全学休講日を想定しました。中学校の都合がつくか、大学当局の許可は得られるかは、これからの交渉ですが、両者ともに「6月29日の実施」をとりあえずおいておけば、前向きな意向です。添付ファイルをご覧ください。センターメンバーの先生方に40分程度の講義をしてもらおう案です。事前に時間割を提示して、大学生が自分で時間割を組むように中学生に思い思いの時間割を組んでもらいます。実施前に受講希望状況を把握し、極端な偏りがある場合は教室変更等の調整が必要になるかもしれません。受け入れ人数は300名程度で、対象を一学年とする場合は中学校2ないし3校に、全学年を対象とする場合は1校にそれぞれエントリーしてもらいます。足立区教育委員会の方から聞いたのですが、

足立区の中学生在は中学から高校に進学する時に将来大学まで進学するかどうかを決めるそうです。この旗揚げ興業、もし定着すれば2年3年先の受験生確保のための戦略的な意味もあるともご理解ください。添付ファイルの時間割は花園の素案です。たたき台として検討していただければと思います。ご笑覧ください。

そして、区の教育委員会に赴き、件の担当職員と会い、主意書を手渡し、この企画について説明した。「・・・すごい!」説明を聴き終えるや否や、そのまま教育長のところに直行、その場で了解を取り付けてきたのである。早い、本気だ。あつというまに実現に向けて動きだした。

4. 地域社会との共創～実現のための交渉・説得・調整

当時の筆者は、職位は准教授で、長の肩書はもってなかった。いまになって振り返ると、「あの立場で、よくあれだけのことを、しかも、あの短期間に。」と思える連日の交渉・説得・調整に取り掛かった。メールでのやり取りと、その時の空気感で、「対面かつ一対一で交渉したほうがよい。」と思える依頼等は、出向いて交渉に臨んだ。

送信日：2010年4月23日(金)

送信者：花園誠

〇〇先生 地域連携センター企画「体験!!1日大学生」の実施日についてご相談です。先日、足立区中学校の校長会が開かれ、その席上で教育委員会より参加希望を募ってみたいそうです。各学校長ともこの企画に大変関心をひかれたようで、全校から「参加したい」との回答があったそうです。そこで、不公平にならないようにと「全校の受け入れをお願いできないか」と教育委員会の担当課長より打診されました。いきなり全校・全生徒(1万5千人)相手は到底無理です。対応策を担当課長と協議、一回目は各校から代表者を10名程度推薦してもらい(30校あるので300名程度です)旗揚げ的に実施するのはどうか、ということになりました。各校の代表者を集めての実施となると、平日に実施してしまうと、「一日大学生」の企画に参加した中学生はその日の中学の授業をうけられないので、土日などの中学校の授業がない日にこの企画「体験!!一日大学生」を実施するしかありません。

先方からは6月26日(土)か、7月3日(土)はどうかと打診されました。日程について学内行事を勘案したところ、6月26日は翌日にオープンキャンパスを控えているので避けたほうがよいのではと思われるので、7月3日(土)に実施することが現状では可能そうです。

当日は一般教養科目が2コマ入っているだけなので教室の確保はできます。ただ、授業の邪魔にならないように配慮するのであれば、午後に「一日大学生」を実行するなどの配慮は必要かもしれません。実施時間帯は今後の調整として、7月3日(土)の実施について先生のご都合はいかがでしょうか。案がかたまれば、来週の部局長会にでも諮る段取りのようです。お返事ください。

教育委員会の担当者とは、逐次電話・メールで緊密な連絡を取り合った。その中でのリクエストである。「中学生に学食体験させたい。」「・・・出入りの業者に相談します。」翌日、千住キャンパスに赴き、

マネージャーを捕まえ、相談した。「人数が確定できれば、中学生受けする例えばハンバーグ定食なんかは 200 人でも 300 人分でも用意できますよ。」と即応いただいた。それをそのまま伝えると「それではつまらない。大学生のように自販機で好きなものを選ばせて食べさせてい。」「・・・わかりました。」そのままを折り返し再度交渉、「それは手間が。」と難色を示された。しかし「変に意識せず、通常営業してください。ただ 300 人を超える生徒が来ます。いつもより多めに食材を用意してください。」と説得、応じてもらった。全てこのような感じで、一人、調整に奔走しまくったのである。

送信日：2010 年 4 月 28 日

送信者：花園誠

〇〇先生 一日大学生の進捗状況です。新時間割に組み入れさせていただいた全ての先生から「7 月 3 日 OK」のご回答をいただきました。今、学生食堂使用の可否についてカフェテリアを運営している会社のマネージャーと事前交渉しています。土曜日は学生利用が皆無に等しく、教職員が 60 名程度利用するだけとのことで、仮に中学生が大挙押し寄せたとしても学生サービス上の支障はなさそうです。席数は 379 席なので中学生全員が利用したとしてもなんとか収まる勘定です。それから別件ですが、明日、足立区生物園のオープニングセレモニーに、アニマルサイエンスの学科長代理で出席してまいります。〇〇先生のご指名です。足立区長のご挨拶の次に、なにがしかのアピールをしてほしいとの先方のリクエストなので、今の動向でも軽く話してこようかな、と思っております。

5. 地域社会との共創～企画書の完成

ゴールデンウィークの連休中に熟思黙想と集中作業で、「体験一日大学生」の企画書を作成した。実施日まで 2 ヶ月を切っていた。

企画書「体験 !! 1 日大学生。」

企画者

帝京科学大学地域連携センター 兼 こども学部 准教授 花園誠

足立区教育委員会

- 趣旨 高校進学を目前に控えた中学生にその先にある「大学における学びの世界」を丸一日体験してもらうことで、今の勉強の先にある世界（大学）における学問の面白さに気付く機会を提供する。そして、将来の進路を考えるための参考にしていただく。
- 対象校 足立区内の全中学校 37 校
- 対象人数 各校 10 名程度以内を学校長推薦。合計 370 名を選抜。
- 実施場所 帝京科学大学 2 号館アリーナ（開講式のみ）
帝京科学大学千住キャンパス本館
- 実施日 7 月 3 日（土曜日）
- 実施時間 別紙「時間割」を参照
- 必要経費 教員・補助学生の交通費、会議資料作成経費（プリント代）、修了証書印刷代
- 予算 平成 22 年度の地域連携推進センター予算
- 補助員 帝京科学大学の学生有志（動物介在教育研究会など）
- 担当者 大学 総務課 地域連携推進室
地域連携推進センター 花園誠（教育連携・学生参画プロジェクト

コーディネーター)

教育委員会 校長会

11.協賛・後援

12.実行行程案

5 月下旬 大学：「仮決定した時間割、各講義内容の概要、時間割登録票、登録上の注意事項を書いたプリント」を教育委員会に提出。
教育委員会：各中学校に実施通知。生徒用ちらしと登録票用意。

5 月末 各中学校の校内締切。

6 月第一週 教育委員会：応募の締切。応募の集計と調整。
教育委員会、大学、校長会構成員と事前の連絡会議。日程、時間割、参加生徒等の確認。修正が必要な場合は一両日中に訂正。4 日（金）をめぐりに教育委員会は「仮決定した時間割、各講義内容の概要、時間割登録票、登録上の注意事項を書いたプリント」を各中学校に渡す。

6 月 7 日（月）各中学校：「仮決定した時間割、各講義内容の概要、時間割登録票、登録上の注意事項を書いたプリント」を参加生徒に配布、事前説明。11 日（金）をめぐりに生徒から時間割登録票を回収。

6 月 14 日（月）回収した時間割登録表を教育委員会に送付。翌日には大学に送付する。大学はこの週間内に履修希望状況を整理し、確保する教室を按配、時間割に教室番号書き込み、正式な時間割を作成する。

6 月 21 日（月）大学：「正式な時間割、受講上の注意事項・連絡事項を書いたプリント」を、教育委員会に送付する。

6 月 23 日（水）教育委員会：各中学校に「正式な時間割、受講上の注意事項・連絡事項を書いたプリント」を送付。

6 月 25 日（金）各中学校：「正式な時間割、受講上の注意事項・連絡事項を書いたプリント」を生徒に配布する。

6 月最終週 必要ならば、引率中学校教員と事前の申し合わせ会議をひらく。

7 月 2 日（金）最終連絡。

7 月 3 日（土）実行。

この企画書を手に奔走、学内外の了解をいただき、地域連携推進センターのメンバー教員にメール配信した。実施まであと一ヵ月半を残すのみであった。時間がない。

送信日：2010 年 5 月 16 日

送信者：花園誠

〇〇先生 おはようございます。花園です。7 月 3 日（土）に実施予定の「体験！1 日大学生」企画に関するお願いでございます。大学で講義をうける雰囲気をもりあげるべく、各講義の内容を記載した簡単な「シラバス」のようなものを作成し、事前に中学生に配布、履修登録をしていただこうと考えております。つきましては新学期も始まりなにかと大変お忙しいこととは存じますが、以下の記入欄にご記入いただいた上で花園まで返信いただけないでしょうか。編集作業等の日程、教育委員会とのやり取り、各中学校への配布等を考えますと 5 月 22 日（土）までにご回答いただけると幸甚でございます。

1.お名前

2.自己紹介 (1)・(2)ともに 100 字以内でお願いいたします。

- (1)専門分野
 - (2)略歴
 - 3.講義のタイトル（添付ファイルをご参照ください。）
 - 4.講義の内容 100字程度でお願いいたします。
 - 5.講義を受ける中学生に持参してほしいもの（もしあれば）
 - 6.その他の注意事項（もしあれば）
- 以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

送信日：2010年5月18日

送信者：花園誠

〇〇様 花園です。お尋ねの件、昨日に千寿桜小で「動物介在教育」を実施したついでに打ち合わせしてきました。足立区側としては7月3日の実施に関してなんの障害もないとのことでした。足立区長も見学を希望してらっしゃるようです。どうも反響の大きさは想像をこえてそうです。教育長をはじめとして、教育委員会の幹部のほとんども見学に来ると思われまふ。昨日もそうでしたので。昨日の話し合いをうけての改定案と改訂時間割案を送付いたします。どうぞよろしくお願い計らいください。決済前の根回しがたいせつなので、そのへんのことは〇〇室長、〇〇課長ともよく相談してください。具体的には〇〇先生、〇〇先生、〇〇課長、〇〇課長、〇〇局長です。花園からもはたらきかけます。

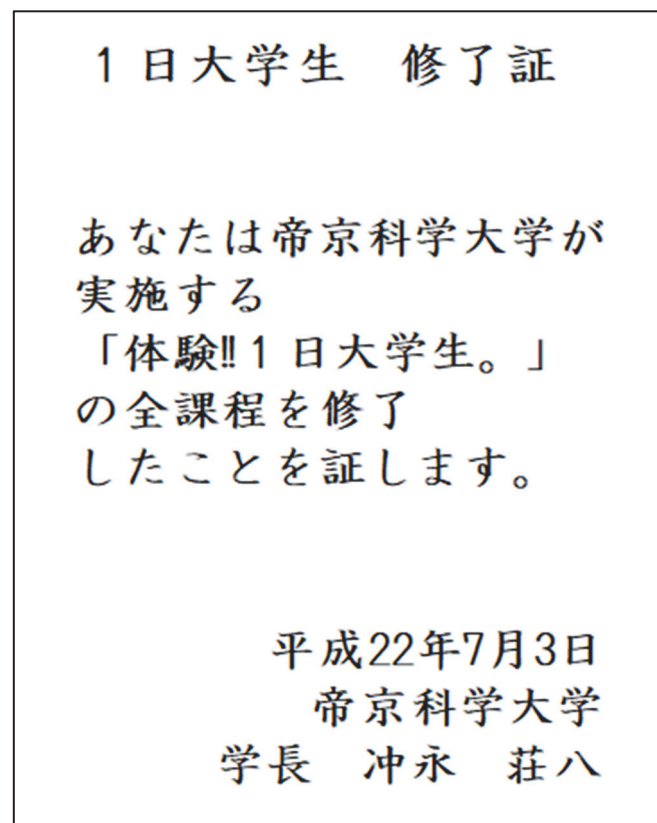


図1. 受講生に配布した「修了証」

送信日：2010年5月18日

送信者：花園誠

〇〇様、簡単につくってみました。こんなものでしょうか（図1）。それから、昨日の様子はTokyoMXテレビの17日夕刻のニュースで

放映されました。TokyoMXのHPで放送映像が確認できます。皆さまにお知らせください。

送信日：2010年5月24日

送信者：花園誠

〇〇先生 地域連携センターの花園です。前にご連絡差し上げた中学生向けの「1日大学生」企画ですが、7月3日の実現に向けて、足立区教育委員会、中学校校長会と協調して動き出し、今、時間割の最終調整と中学生に配布する「シラバス」の編集作業をしております。先生からは「スポーツとけがの予防」という講義題目を拝受いたしました。どうもありがとうございます。先生におかれましては、たいへんお忙しいことと存じますが、シラバスに記載する項目として先生の「専門領域、略歴（いずれも100文字以内）」、それから「講義の内容」、そしてもしございましたら「講義を受ける時に中学生に持ってきてもらいたいもの」などのご指示をいただけると幸甚でございます。どうぞよろしくお願いもうしあげます。

送信日：2010年5月26日

送信者：足立区教育委員会

花園先生 先日は時間割表をお送りいただき、ありがとうございます。私どもも、当該事業の準備を進めております。さて、昼食時のことですが、各中学校に一部食物アレルギーを持つ生徒がおります。その関係で、カフェテリアのメニュー（料金入り）を送付して頂けないでしょうか。（もちろん、弁当持参可のことも伝えています）当日の1週間前頃に受講票等を送りますので、できればその際に併せて情報提供できればと考えています（お手数かけて申し訳ありません）。それから、先日の「動物ふれあい教室」はお陰様で好評だったことは以前お伝えしましたが、その後多くの問い合わせがありました。その中で絞らせて頂いた結果、何とか、あと5校実施をお願いできないでしょうか。そのうちの3校は、「大学への遠足」も希望しており、両方を体験してもらうことによって、私どもとしましても比較検討させて頂きたいと考えています。いかがでしょうか。なお、希望校の人数は、70から90人くらいです。「体験！一日大学生」の人数が出揃いましたら、また連絡いたします。よろしくお願いします。

送信日：2010年6月5日

送信者：花園誠

お世話になります。花園です。7/3の件、〇〇〇〇の学生さんにもお手伝いをいただければありがたいと存じます。当日の内容ですが、ちょうど一週間前にオープンキャンパスがあるので、パネルなどはそこで使用したものを流用することを考えています。〇〇〇〇でも可能でしょうか。どのように中学生を実習体験で回すかは検討中ですが、なるべく見学できる箇所を増やした上で、設定時間内に自由にめぐってもらふ方法にしようかと考えています。そうすると各箇所に説明者を立てる必要があります。大人数の来場者に手際よく対応するには説明者を増やさなければなりませんので、〇〇〇〇の学生さんのお手伝いがあると助かります。

送信日：2010年6月30日

送信者：花園誠

〇〇先生 お世話になります。花園です。6/23にいただいたお尋ねに対する回答です。色々調整に手間取り返信が遅れました。たいへん申し訳ありません。

Q1. *当日の服装については外見上問題なければ特に規制をしなくてもよろしいですか？

A1. 特に規制するつもりありません。

Q2. *当日の朝の集合時間は登校時間と同じで良いのか？

A2. 同じでかまいません。

Q3. *補助学生の昼食はどのようにになりますでしょうか？

A3. 学食に関しては、中学生にお支払いいただく予定です。下のお問い合わせにも関連しますが、些少ですが日当的なものを出せるように努力中です。手元不如意で申し訳ありません。それで埋め合わせるようなかつこうで納得していただけないでしょうか。

*オープンキャンパスのように日当的なものが出るのでしょうか？
(学生側にはこの点は一切アナウンスはしておりません)

Q4. *私の担当する授業で助手を務めていただきますがそれ以外の時間で興味のある講義を聴くことは出来ますでしょうか？学生からは要望として聴講したいとのことです。

A4. 教室に空席がある場合はかまいません。

当日はどうぞよろしくお願いいたします。とりいそぎ

送信日：2010年7月1日

送信者：花園誠

〇〇先生 お世話になります。花園です。7/3の件です。4時限目の時間帯に実習室の見学が予定されておりましたが、教育委員会との協議の上で、見学開始時間を13時00分から繰り上げて12時00分から変更することになりました。終了時刻は原案どおりの14時00分です。この12時から14時までの2時間は「学内見学と食堂体験の両方にある」ことで見学者に時間的な余裕を与え、各所(食堂・実習室)での混雑を避けようという意図です。添付ファイルをご参照ください。連絡を差し上げるのが直前になり、たいへん申し訳ありません。混雑を避けるためとはいえ、先生にはご負担を強いることになってしまいますが、どうぞご協力ください。お願いいたします。

送信日：2010年7月1日

送信者：花園誠

7月1日 「体験！一日大学生」の講師の皆さま
お世話になります。取りまとめをしております花園です。いよいよ明後日にせまってきました。いくつか連絡事項がございます。

1.各教室には Windows のノートパソコンを一応一台ずつ設置しております。もちろん持参して下さってもかまいません。

2.何か配布資料を印刷したい場合は、総務課地域連携室の〇〇室長もしくは〇〇係員にその旨を「直接」申し付けください。必要な枚数を印刷して下さるそうです。経費はいただきません。ただし、申し出は早目に願いたいとのことです。

3.8時50分より2号館アリーナで開校式をいたしますが、とくにそこらには出席してくださなくても大丈夫です。授業の開始時間にま

にあうように各教室でスタンバイしてください。

4.始業のベル・終業のベルは鳴りません。お手を煩わせて恐縮ですが、開始・終了の時間管理をお願いいたします。

5.学生食堂はご利用いただけます。ただし、有料です(ゲストの中学生も)。あらかじめご承知おきください。

6.当日は新聞やテレビの取材が入ると思われます。「大学の宣伝のため」とご了解ください。

その他、なにか質問等がございましたら花園までご連絡ください。

6. 地域社会との共創～実践!!

始めの会、終わりの会の台本を以下に示す。当日の司会進行は筆者が担当した。



図2 アリーナで始めの会

はじめの会(生徒たちは、学校ごとに並んで座っている)

司会：それでは、全員その場に立ちましょう。

ただ今から、帝京科学大学「体験！1日大学生」の開講式を始めます。気を付け、礼。はじめに、帝京科学大学千住キャンパスこども学科学科長、地域連携推進センター長〇〇教授からあいさつがあります。

礼。座りましょう。

<〇〇教授 あいさつ>

司会：(〇〇教授のあいさつが終わったら)全員立ちましょう。礼。(そのまま)

司会：それでは、次に、受講生の代表の方にあいさつをお願いします。受講生代表、近藤やよいさん、お願いします。

一同、礼。座りましょう。



図3 区長のあいさつ

<近藤区長 あいさつ>

司会：(近藤区長のあいさつが終わったら)

全員立ちましょう。礼。座りましょう。

以上で開講式を終わります。引き続き、今日1日の予定について簡単に確認と説明をします。

(当日配布した資料を基に、特に昼の時間帯について確認を行う。)

以上で説明を終わります。それでは、これから場所を1号館に移動します。順に学校名を呼びますから、呼ばれた学校の生徒は移動をしてください。

第一、千寿桜堤、千寿青葉、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、江南、新田、江北、鹿浜、東島根、洲江、竹の塚、東綾瀬、青井、花畑、蒲原、西新井、入谷、上沼田、伊興、花畑北、谷中、花保、栗島、扇、加賀、入谷南、六月

実はこの時、その場の判断で時間割の変更を伝達した。予定では、11時50分から13時まで全体で学生食堂体験、そしてその後13時から14時まで「実習」と称した「アニマルケアセンター(現動物病院)」の施設見学とする予定であった。しかし、アリーナに集合してくる中学生の「動き」をみて、予想以上に移動に時間がかかると判断、11時50分から14時まで「学生食堂で昼食としてもよいし、アニマルケアセンターに見学に行っても良い」と変更を決断したのである。誰にも相談せず、全くの独断であった。「当日配布した資料を基に、特に昼の時間帯について確認を行う。」のところで、その旨を全体にアナウンスした。「そうしたほうが絶対によい」という確信があつての独断の予定変更であった。しかし、やりとりを交わしていた教育委員会の担当者は「いったいなんてことを・・・」と狼狽が顔に現れていた。あとになって「申し訳ないことをした」と振り返ったが、その後、その変更を全体に伝えるため、文字通り「走り回った」。とにかく、アニマルケアセンターと学生食堂に予定変更とその対応をお願いしなければならない。



図4. 教室移動

1限目が終り、教室移動。廊下は中学生であふれ、大渋滞で移動ができない。声を枯らして中学生の誘導に走り回った。少しずつ人の波が動き出し、どうにか2時限目も時間通りに始めることができた。

そして、11時50分、昼食の開始である。予想通りの券売機前の大渋滞、そして、配膳をまつ中学生の大行列である。「先に見学に行った」と中学生に声をかけまくり、渋滞と行列の解消に奔走した。独断の予定変更は正解であった。予定通りの時間割としていたら、中学生の過半は昼食がとれなかったであろう。このとき、児童教育学科の教員が機転を利かし、保育室、音楽室なども見学できるように開放してくださった。さらに中学生が分散、互いの干渉が減ることで全体の動きが円滑になった。



図5. 大教室で受講体験



図6. アニマルケアセンターの見学

そして、14時10分、おわりの会である。ここも司会は筆者が担当した。

おわりの会

(生徒たちは、座っている)

司会：ただ今から、帝京科学大学「体験！1日大学生」の閉講式を始めます。全員、礼

はじめに、1日大学生 修了証の授与を行います。

代表の生徒は前に出てください。(2人が前に出る)

<〇〇教授から2人の生徒それぞれに修了証の授与>

司会：次に、帝京科学大学〇〇教授からあいさつがあります。礼。

<〇〇教授 あいさつ>

司会：(〇〇教授のあいさつが終わったら) 礼。

司会：それでは、次に、受講生の代表の方にあいさつをお願いします。

受講生代表、齋藤幸枝さん(当時の教育長)、お願いします。一同、礼。

<齋藤教育長 あいさつ>

司会：(齋藤教育長のあいさつが終わったら) 礼。

以上で帝京科学大学「体験！1 日大学生」の閉講式を終わります。各学校の担当の先生から修了証を受け取り、先生の指示で移動してください。

一吐嗟の機転と、行動力と皆様の理解と協力でなんとか乗り切った。以下は、その直後に配信したお礼のメールである。

送信日：2010 年 7 月 3 日

送信者：花園誠

〇〇先生本日はどうもありがとうございました。また、急に児童教育の「実習室見学の追加」をご快諾くださり、感謝しております。先生のお力添えもあり、地域連携センターの旗揚げ興業「体験！1 日大学生」を無事に終えることができました。色々と準備不足のところもあり、ご迷惑をかけたことと思います。その点、どうぞご容赦ください。教育委員会の窓口であった〇〇課長からは「こどもたちにも、引率の先生にも大好評だった」とのとりあえずのコメントをいただいております。このような機会がありましたら、また是非お力添えください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

7. 実践の成果～中学生の感想。

参加生徒数 377 名（1 年…140 名、2 年…109 名、3 年…128 名）

1 「専門の講義」について

- 〇大学生が受けている授業がどんなものか、よくわかった。高校を卒業したら、大学へ進学したいという思いが固められた。
- 〇今まで興味があった未知の分野を学ぶことは楽しいと感じた。早く大学生になりたいと思った。有意義な時間を過ごすことができた。
- 〇専門の授業なので内容が濃く、おもしろかった。中学では基本的なことしか学べないので、もっと深く知りたいと思っていた。自分の好きな科目を取り、知識を広められる場所があることを知った。
- 〇少し難しかったが、勉強をやる気もわいてきた。
- 〇大学の授業なので最初は不安だったが、とてもわかりやすかった。
- 〇どの授業もスクリーンを使ったので、わかりやすかった。自分の好きな分野を学べるのはとてもよいと思った。
- 〇希望した教科が外れてしまい第二希望の教科になったが、実際に受けてみたら楽しくてよかった。
- 〇40 分間の授業を受けるだけで精一杯だったが、1 時間 30 分も授業を受けている大学生の皆さんはすごいと思った。
- 〇大学について考えるのはまだまだ先の話と思っていたが、今回の体験で今から考えたほうがいいのかと思い直した。
- 〇中学校にはない勉強の楽しさを見つけられて、高校や大学、専門学校への進学が楽しみになった。
- 〇今日学んだことを生かしながら、自分の将来の職業に役立てたいと思った。
- 〇話の内容はおもしろかったが、何らかの形で体験ができたらいいなと思った。
- 〇始業の際に、「気をつけ、礼」をしないことに驚いた。

2 「実習施設の見学」・「大学生と話そう」・「学生食堂体験」について

(1) 「実習施設の見学」について

- 〇アニマルケアセンターで、マジックミラーを使って観察するところなど、特に勉強になった。大学生がいろいろ詳しく教えてくれて、とても楽しかった。
- 〇アニマルケアセンターで大学生が詳しく話してくれて、将来は動物病院の先生になりたいと思った。
- 〇大学はすごく広く、施設もたくさんあっておもしろかった。なりた職業のことを学ぶのに役立つと思った。
- 〇中学校にはないものが大学にはたくさんあったので、驚いた。
- 〇本物の人骨を見ることができて、とても感動して 2 回も見に行った。
- 〇保育になりたいので保育室に一番興味があった。そこには、赤ちゃんの人形や大きな絵があり、こういうところで勉強したら楽しそうだと思った。
- 〇見学だけでなく、自ら体験できるコーナーもあったらよかった。
- 〇ピアノ練習室は一人一台あって、防音になっていてすごいと思った。
- 〇昔、ここにあった小学校に通っていた。当時、校庭にすべり台としてあった「おぼけ煙突」が、今は大学のモニュメントとして残っていたのがうれしかった。
- 〇実習施設にはたくさんの機械があり、実験をすることにとっても興味がわいた。
- 〇いろいろな部屋があって、一つの細かいことを深く研究していることがわかった。

(2) 「大学生と話そう」について

- 〇大学生が気さくに話してくれてよかった。
- 〇自分の知りたいことを親切に教えてくれたので、よくわかった。
- 〇自由時間に大学生と話した。勉強のことなどいろいろと教えてくれた。自分を成長させるとてもよい一日となった。
- 〇大学生が作った紹介ビデオを見て、何を勉強しているのかよくわかった。
- 〇大学生と話をしていて、自分の思っていた大学のイメージが変わり、大学に行きたくなった。
- 〇実際に大学生が勉強しているところを見たかった。

(3) 「学生食堂体験」について

- 〇学食は少し時間はかかったが、おいしくて安いので「大学生っていいな」と思った。
- 〇学食では自分の弁当を食べたが、何となく雰囲気をつかめた。
- 〇日頃食べている給食と違って、食堂では自由に席が選べてとても楽しかった。
- 〇学食はレストランのような食券を買い食べ物と交換することに、びっくりした。
- 〇学食は、ちょっと大人になったみたいだった。
- 〇憧れの学生食堂で食べられて、小さな夢がひとつ叶ったなと思った。おいしかった。

8. 実践の評価～引率教員の感想

引率教員数 50 名

1 参加した生徒の反応について

- 大学に行く前からかなり期待していた様子で、当日も講義を熱心に聴き、カフェテリアの使用などを大いに楽しんでいた。
- 参加者全員が喜んでいて、翌週の朝礼時に参加者代表が体験を発表し、次につなげるようにした。
- とても興味を持ったようだ。帰りがけに、教員に講義内容を説明してくれたり、質問したり、有意義な 1 日だったことがわかった。施設見学にも大変興味を示していた。
- 中学校の授業とは教室の雰囲気、人数も違うので緊張も見られたが、いつもより引き締まった表情で受講していたのが印象的だった。ほとんどの生徒がおもしろかったと答えていた。カフェテリアでの自由な昼食も、よい経験となったようだ。修了証をもらえたことも大変うれしそうだった。
- 大きなスクリーンで、映像を見ながらの授業は新鮮だったようだ。
- 新しい校舎や広々とした教室に入り、大学に対する興味、あこがれがわいてきたと言っていた。
- 家に帰ってから様子を話したようで、保護者もとても喜んでいて。
- 生徒にとって、進路選択の一助となったようだ。
- 施設見学では、普段の授業では見られない実験器具や動物用の手術台などに関心が高かったようだ。

2 講義の内容について

- 中学生に合わせた講義内容と時間（1 コマ 40 分）だったので、生徒にとってわかりやすかったようだ。大学レベルの内容を、中学生が理解しやすいように詳しく説明されていた。
- 完全講義型と参加型の授業があったが、どちらも大学の授業というものを経験するという意味で生徒たちにとってよかったと思う。
- 大学の先生方も、中学生向けに 40 分の内容を作るのは大変ご苦労されたと思う。
- おもしろいテーマがいくつもあり、40 分でもよく噛み砕いて紹介して頂いた。
- 電子機器を駆使して、わかりやすかった。内容も精選されていて、興味深いものだった。想像していたものより、ずっと親しみやすかった。
- ITC の活用は見習いたいと思った。

3 集合方法や引率の方法などについて

- 特に問題はなかった。
- これだけの人数になる場合は、今回の方法がベストだと思う。昼食の時間が予定と変わったのは、対応としてよかった。
- 利用した北千住駅行きバスがミニバスのため、本校の生徒と引率者で独占する形となってしまう、あとから乗ろうとした他校の生徒は次のバスを待たざるをえなかった。次年度は臨時バスの運行等を検討して頂けると有り難い。
- 施設の都合で難しい面もあると考えるが、開講式後の移動時間があったいなと思った。同じ校舎ですべて済ませた方がよかったのではないかな。開講式のスタイルも考えられる。
- 開講式の中で、講師と担当する講義名の紹介を行うと雰囲気作りのためによかったのではないかな。また、開講式は 2 つの教室に別れても、スクリーンの映像ではなく別々の司会者を立て、挨拶する方を時間差や順序を替えるなどして、直接聞く方がとれると臨場感や感動がさらに高まると思う。しかし、中継方式による体験も、大学生・大人の体験の 1 コマとして有意義と捉えることもできる。
- 大変有意義な素晴らしい企画であったと思う。大学の方々の様々な配慮に感謝したい。今後も、継続できることを期待する。

9. 実践の評価～本学の事務局長より

送信日：2010 年 7 月 5 日

送信者：事務局長

こども学科 花園 先生

先週土曜日の「体験！一日大学生」の開催、お疲れ様でした。こどもたちの輝いた目や笑顔を見て、花園先生たちがとても素晴らしい行事をなさったんだなと感激しました。教育委員会の方々も大変喜んでいましたね。花園先生には、お忙しい毎日と思いますが、これからもよろしくお願いします。でも、お体に気をつけられ、素晴らしい実践の成果をまとめる時間も確保してください。

—10 年の時を経て、ようやく本稿を上梓することができた。「地域社会との共創」を象徴する一大イベントであった。この初回の活動についてまとまった予算建てがあったわけではない。全てがゼロからの立ち上げであった。教員の皆様一人一人、職員の皆様一人一人、そして足立区教育委員会の皆様一人一人の熱い思いがなければ到底実現できなかったであろう。当時は振り返り、皆様のご厚意、ご理解、ご協力にこの場を借りて心からの御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

花園誠

時間					
8:30～9:00	登校 集合場所 1311 教室・1312 教室				
9:00～9:20	はじめの会	開校式 ご挨拶 センター長 足立区教育委員会 会場説明 花園誠 1311 教室・1312 教室			
9:20～9:30	移動・休憩時間				
9:30～10:10	1 限目	国語 「eメールのしくみ」 児童教育学科 1307 教室	国語 「イルカのことば」 自然環境学科 1308 教室	美術 「漫画の見方」 こども学科 1309 教室	美術 「CG アニメの作り方」 こども学科 1310 教室
10:10～10:20	移動・休憩時間				
10:20～11:00	2 限目	社会科 「学校は社会の縮図」 児童教育学科 1307 教室	社会科 「小笠原村の自然」 アニマルサイエンス 学科 1308 教室	保健体育 「動物と癒しの力」 アニマルサイエンス 学科 1309 教室	保健体育 「理学療法士の仕事」 理学療法学科 1310 教室
11:00～11:10	移動・休憩時間				
11:10～11:50	3 限目	理科 「花が進化した理由」 生命科学科 1307 教室	理科 「都会の自然」 自然環境学科 1308 教室	理科 「荒川の生き物」 自然環境学科 1309 教室	理科 「環境ホルモンって何?」 生命科学科 1310 教室
11:50～13:00	昼休み	学生食堂体験 カフェテリア			
13:00～14:00	4 限目	実習 「大学の実習施設を見学!!」 こども学科 花園・飼育職員・補助学生 アニマルケアセンター			
14:00～14:10	移動・休憩時間				
14:10～14:30	終わりの会	閉校式 ご挨拶 学長補佐 足立区教育委員会 1311 教室・1312 教室			
14:30	解散				

「体験！一日大学生」参加者数

	中学校名	1 学年	2 学年	3 学年	生徒計	内 訳	
						男	女
1	第 一			11	11		11
2	千寿桜堤	7		4	11	7	4
3	千寿青葉	13	4	5	22	5	17
4	第 四						
5	第 五		3		3		3
6	第 六			8	8	3	5
7	第 七	23	3	7	33	9	24
8	第 八			9	9		9
9	第 九			7	7	2	5
10	第 十	2	3	4	9	4	5
11	第 十 一	6	1	5	12	8	4
12	第 十 二	8		1	9	6	3
13	第 十 三			1	1	1	
14	第 十 四	2	9	3	14	3	11
15	江 南	3	2	1	6		6
16	新 田	8	6	3	17	9	8
17	江 北	5	4		9	2	7
18	鹿 浜	3	9	1	13	3	10
19	東 島 根		2	2	4		4
20	湊 江	3	5	2	10	1	9
21	竹 の 塚		5		5	2	3
22	東 綾 瀬	6	8		14	4	10
23	青 井	10	3	3	16	15	1
24	花 畑		1	3	4		4
25	蒲 原	1	11	6	18	10	8
26	西 新 井	6	6	3	15	9	6
27	入 谷	2			2	2	
28	上 沼 田	3		6	9	3	6
29	伊 興	2	8	3	13	8	5
30	花 畑 北	4	1		5		5
31	谷 中	2		4	6	2	4
32	花 保			9	9	2	7
33	栗 島	5	5	1	11	9	2
34	扇	4	7	1	12	2	10
35	加 賀			7	7	2	5
36	入 谷 南			8	8	4	4
37	六 月	12	3		15	11	4
	合 計	140	109	128	377	148	229